

第5回 第4期熊本市自治推進委員会会議録（案）

日 時：平成30年9月10日（月） 午前10時～12時

会 場：熊本市役所12階会議室

出席者：澤田委員長、小林副委員長、秋山委員、家入委員、北岡委員、越地委員

高智穂委員、野口委員、遊佐委員、米満委員

欠席者：なし

事務局	<p><b>(資料確認)</b></p> <p>会議次第 席次表</p> <p><b>【会議資料】</b></p> <p>自主自立のまちづくりの推進について <b>資料1</b></p> <p><b>(会議成立確認)</b></p>
澤田 委員長	<p>皆さんおはようございます。本日もよろしく願いいたします。</p> <p>今回は、自治基本条例見直しの答申時にお集まりいただきましたが、その前が6月1日でしたので、少し間が空いております。</p> <p>6月1日の会議の際には、自治基本条例見直しの答申書の確認、それから、自主自立のまちづくりの推進ということで、今日も皆様にご意見をいただく内容についても少し議論をしたところです。</p> <p>自主自立のまちづくりについては、事務局から熊本市の人口減少、高齢化、熊本地震の影響、それから地域活動の概要について説明がありました。</p> <p>皆様からは、色々ご意見をいただきました。地域リーダー育成の重要性や地域住民が各種団体と連携していく必要性、自治会の在り方などです。</p> <p>本日を自主自立のまちづくりについて、事務局から事例を紹介していただきますので、それを踏まえ、自主自立のまちづくりとはそういった状況を指すのか、それに向けて我々住民や行政が何をしなければならないのかを考えていきたいと思っております。</p> <p>本日は、委員全員にそれぞれお考えを伺いたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、早速ですが次第に従いまして、「自主自立のまちづくりの推進について」事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、審議事項1の「自主自立のまちづくりの推進について」ご説明させていただきます。</p> <p>自主自立のまちづくりの推進について <b>資料1</b></p> <p>以上で、説明を終わります。</p>

<p>澤田 委員長</p>	<p>はい。ありがとうございました。ただ今、事務局より「自主自立のまちづくりの推進について」ということで、熊本市の状況を中心に説明がございました。熊本市内で行われている様々な住民主体の取り組みだけでなく、他都市についても説明があったところです。</p> <p>この委員会は、市長から諮問があった通り、まずは自治基本条例の見直しについて考え、その次に自主自立のまちづくりの推進について考えるという委員会です。</p> <p>皆様から自主自立のまちづくりについて、「熊本市は今後どうあるべきなのか？」そのために、「我々は何をすべきなのか？」ということについて、ご意見をいただきたいと思います。それらの意見をまとめて、次回に「こうあるべき」といった方向性を示していきたいと思っています。</p> <p>本日は、その方向性を示す基礎として、お1人ずつご意見をいただき、次回のたたき台にしたいと考えております。ぜひ、ただ今のご説明を聞いた中で、「私自身はこう思う」という視点でご意見をいただきたいと思います。</p> <p>ただ今の説明を私なりに要約させていただきます。まずは、熊本市においても少しずつ人口が減少していくということです。しかし、この人口減少に歯止めをかけるということは、現実的にも難しい話です。日本全体で人口が減少していきますので、他の地域から奪ってくるという話になるためです。実際には、人口減少が頭打ちするのが、早くても20年後～30年後ということとなっています。そのため、今後しばらくは人口が減少することを前提に話をしなければなりません。さらに、説明にもあった通り、熊本市内の地域間でも人口減少の進展に濃淡があるということです。</p> <p>また、もう1点指摘があったのが、今後、単独世帯の数も少しずつ増加するということです。「人口が減少し、単独世帯が増えていく。」このような変化を踏まえて、我々は自主自立のまちづくりというものを考えていく必要があります。今までのまちづくりとは違った視点や方向性が求められるかもしれません。</p> <p>それから、熊本市・他都市の事例を見てみると、重要な点がいくつもございました。様々な取り組みがありましたが、それぞれの取り組みごとに「きっかけ」があったかと思います。例えば、みんなを引っ張るリーダーの存在などです。また、単純に1人のリーダーが旗を振っているだけでなく、そのことにより、地域の人たちのやる気に火が付くという点もポイントになるかと思います。</p> <p>オレンジカクテルナイトを見てみると、大学生が始めたイベントですが、少しずつ地域の方々のやる気に火が付いているようです。さらには、それを継続するための何らかの仕組みやシステムも必要ではないでしょうか。湖東中学校の地区生徒会の取り組みについても、中学生自身が代々引き継いでいくといったこともあるかと思います。</p> <p>このように、事例の中から学べる多くの重要なポイントがあるかと思いますので、参考にしながら我々ほどのような方向性を目指すのかを考えたいと思います。それでは、まずは全員にご意見を聞きたいと思いますので、ご自身のお考えに</p>
-------------------	--

	<p>ついて発言いただき、一巡したら意見交換を行いたいと思います。</p> <p>まずは、順番で高智穂委員お願いします。</p>
高智穂委員	<p>今日は秋山委員からとっていました。</p> <p>まともっていないですが、まずは、どのようなイメージで「自主自立」ということを言っているのかで、大きく変わってくるのではないかと感じています。熊本市が「自主自立」にどんなイメージを持っているかということです。ただ、それは、抱える町内や問題などが違うため、地域ごとに合ったものがあると思います。地域に合ったものが必要ということで、それを外部の人が見つけるのもいいし、地域に住む自分達で見つけるのもいいし、まずは、見つけることが最初の段階として大事ではないかと感じています。</p> <p>そのためには、委員長がおっしゃっていた通り、地域の鍵となる人を捕まえることが重要だと思っています。また、鍵となる人への協力を惜しまない人や様々な取り組みを一緒にやってくれる人が集まってくる流れも必要です。</p> <p>防災の備えも同じで、自分で理解して動き出すまでは、どんなに人がやっているところを見ても「すごいね」だけで終わってしまいます。そのため、皆さんが、このまちがどんな問題を抱えていて、どんなまちにしたいか、どんなイメージを掲げて進んでいくのかを、それぞれが考えていかなければなりません。すごく漠然としていますが、そうすることによって、自分達の自主自立のまちづくりは「これだ」というのが見つかるのかなと思っています。</p> <p>湖東中学校地区生徒会の事例では、自治会費の中に中学生との交流にかかる予算があらかじめ組み込まれていました。そのような形で、自治会費に強制的に組み込んでしまって「これだけお金があるので、しなければなりませんよ」くらいの勢いがあったらいいような気がします。「このお金があるからしないといけない」といった始まりかたも大事かと思っています。</p> <p>意外と学生達や子ども達は、地域と関わってみると楽しいと思ったり、関わりたいと思っている人達も沢山います。そのような人同士を刷り合わせることを大人達が半ば強制的にやると自然と流れが出来るのかなと感じました。</p> <p>すみません。まともっていませんが、以上です。</p>
澤田委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>高智穂委員の自主自立のまちづくりのイメージというのは、活動自体がそれぞれの地域にあるので、それぞれの地域が自分達にあった自主自立のまちづくりのイメージを持たなければならないということですね。</p>
高智穂委員	<p>そうですね。すべての地域が型にはまったものにはならないかなと。どうしても無理な部分が出てくると思います。それぞれの地域が「自分達は自立しなければならない」という気持ちに火をつけるための仕組みをどう作るのか、それは何なのかということだと思います。</p>
澤田委員長	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>では、野口委員お願いします。</p>
野口	<p>はい。資料の説明がありましたが、まずは、その中で気になる部分からお話し</p>

<p>委員</p>	<p>ていきます。</p> <p>最初に、都市機能誘導区域の説明がございました。赤色に近い地域は、生活都市区域ということで、それに沿った地図になっているかと思います。ここで問題となるのは、その区域ではない白色の地域のことです。白色の地域に対してはどうしていくのかという思いを持っています。</p> <p>単身世帯の増加についても、私達民生委員は注目しています。また、自治会加入率の 85.4%については、そもそもデータの取り方が正確ではないような気がしており、取り直しや算定方法を検討したほうがいいかと思います。</p> <p>さらに、沢山の事例の紹介がございました。良い事例ばかりですので、これらを膨らませることや継続させるなどの支援体制が必要ではないかなと思っております。</p> <p>以上を踏まえて、私の感じたことをお話したいと思います。</p> <p>私達民生委員は、校区によって問題点が異なります。まずは、地域でアンケートなどを取りまして、校区ごとの問題点の優先順位を作りました。第一位は、孤立や孤独死に対する見守りや対応の強化です。それから、買い物や交通の利便性が低いことが第二位。第三位は、認知症に対する予防と対応、それから啓発活動、地域内の情報共有についてです。続いて、向こう三軒両隣で助け合うお互いさまの気持ちが不足していることへの対応といったものです。</p> <p>次に、自治会未加入者への加入促進についてですが、危機管理防災総室は 3 月までに新たな防災計画を出されると聞いています。これだけ自然災害が多くなると防災訓練を地域のどの単位で実施するかも関係してきます。防災訓練は当然、自治会へ加入には関係なく実施しなければなりません。旗振り役として、自治会長や町内会長が中心になるかと思います。そうすると、未加入者も当然巻き込んで校区や地域が一体となって、行動しなければなりません。また、防災訓練をやると校区の動きがすぐに分かると思います。そのため、私の地域でも防災訓練を計画しているところです。</p> <p>それから、高齢者人口は現在の 45 歳～49 歳が 20 年後となる 2040 年に向けてピークとなるかと思います。そうすると健康で元気にいるためにはどうすればいいかを行政でも様々な施策をやっているかと思います。</p> <p>その点で、各地区では健康サロンが出来ています。しかし、問題なのはサロンのリーダーについてです。現在、やっている方は非常に素晴らしい方ばかりですが、だんだんと高齢化しており、次の世代をどう育てるかが重要になっています。自治会をあげての問題になるかと思っています。それからサロンへ参加していない人をどのように引き込むかという点も課題だと感じています。</p> <p>現在、市では定期健診を実施しておりますが、なかなか受診率が上がりません。私もなぜだろうと考えております。30%に達していません。受診率を上げる検討が必要だと思います。熊本は糖尿病と高血圧が全国でも 10 位以内に入る都市です。こうした健康の問題も取り上げていかなければいけません。</p> <p>以上です。</p>
-----------	--

澤田 委員長	<p>ありがとうございました。少しお尋ねですが、今後高齢者が増えていく想定ですが、健康で元気であるためにはどうしたらいいのでしょうか。</p>
野口 委員	<p>はじめに食事の改善かと思います。そして、日頃の自らの生活習慣を見直すことが重要ではないかなと。</p> <p>市では、8020推進委員などやっていますが、1人1人を考えると生涯現役ということで、定年が60歳から70歳になろうとしています。その前提にあるのは健康でいること、つまり健康寿命についてです。健康寿命をいかに長くするかということかと思います。</p>
澤田 委員長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、遊佐委員お願いします。</p>
遊佐 委員	<p>私なりに自主自立のまちづくりとはどういったことなのかを改めて考えさせていただきました。</p> <p>やはり、なにより皆様が求めること、市民が求めることは、安心して日々の生活を送り、働くこともでき、収入も安定しているまちづくりを望んでいると思います。</p> <p>現在の市の方針として、都市機能誘導区域を考えており、その区域には様々な商業施設を集めて、いわゆるコンパクトシティのようなものを作っていくということを考えているかと思います。</p> <p>私のように熊本には外から来た者からすると、熊本地震によって十分にコンパクトシティとなっていると感じている中で、それをさらに細分化するのはどうなのかという疑問もあります。ただ、今後の高齢化の中で、お年寄りが生活する上で困らないラインで色んなものが集まっている区域ということで考えております。</p> <p>また、課題や問題点はその地域ごとで違うと思います。それを区役所という小さな塊の中で、それぞれの地域の問題や状況を把握し、市という大きな塊で「ここではこういう問題がある」という情報を共有し、さらには、その困っていることに対して、「こういうNPOがいる、こういう相談役がいる」という情報を地域に下ろしていくことが、区役所やまちづくりに携わる人の大事な仕事だと思っております。それらを地域と密接に関わりながら行うことで、住民の充実した生活に向けた何かしらの一歩に繋がると思います。</p> <p>それから、現在、市では地域リーダーの育成に力を入れております。私も一部お手伝いをしておりますが、「リーダーになりたい」と思い勉強会に行くのではなく、「何か自分にできることはないか」という気持ちで行きます。そういう人達の思いを汲み取って、その方々が活躍できる場や充実した生活が送れる何かを考えていく必要があると思います。</p> <p>そうなった場合、区役所の仕事を細分化することにも繋がり、負担も増えると思います。ただ、熊本市民の意気込みには凄いものがあります。私は外から参りましたが、人間も一種の熊本の財産かと思っております。「この人と話したい」とか、「この人の話を聞いてみたい」といった、ちょっとしたきっかけからでも良いと思</p>

	<p>ます。どこかどこかを繋げる工夫ができればと思います。</p>
澤田 委員長	<p>ありがとうございました。地域リーダーについて、少しお尋ねしたいと思えます。</p> <p>「リーダーになりたい」と思って来る人は多くなく、「何か人の役に立ちたい」という人が多いということでした。そのような人の出口戦略と申しますか、その後の繋ぎの仕組みはあるのですか。</p>
遊佐 委員	<p>一種のNPOなどを通じて、そういう人たちの中から学校や地域の活動のお手伝いに協力するということをやっています。</p> <p>学校では教職員の負担もあり、地域の方々も巻き込んで、例えば、校区全体で花を植える作業をしたり、先生の負担軽減に取り組んでみたりと地道な活動を行っています。校長先生を経験した方のネットワークを通じて、役立つ人を斡旋などもしているところです。</p> <p>また、新たな地域リーダーを育てるための講習会については、各区役所にご協力をいただきながらやっています。</p>
澤田 委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、米満委員お願いします。</p>
米満 委員	<p>「自主自立のまちづくりの推進」ということで、心の中では自主自立を実践しようと考えていると思いますが、それをどのように地域が受け入れていくシステムがあるか、また、行動に移すシステムがあるかが重要だと思っています。本日は、素晴らしい事例の紹介があり、どれもすごいと思います。それぞれの事例にエネルギーがどれだけいるのかということです。</p> <p>私が仕事をしているのは、南区の天明というところです。平成2年の合併時には1万2千人住民がいましたが、平成30年で8,900人程になっています。年に100名ずつくらい減っているのではと思うくらいです。</p> <p>天明は農業地帯ですので、お1人お1人が自分の田んぼを守っていかなければならないという自主自立、それから、地域内での協力をしなければならぬという意識が大体植え付けられているまちです。</p> <p>大変僭越ですが、私は28年前に天明地域で高齢者施設を始めました。そのときから、「地域と共に」ということを掲げて地域の方と一緒に活動をしようという思いでやってまいりました。スタッフが地域と一緒に仕事をする中で、職員数や職員力が落ちていることを不安に感じている中で、熊本市からまちづくりの担当者が配置され、大きな期待と本当に良かったと思っていますところでした。</p> <p>28年間、「地域と共に」ということでやってきましたが、私達の力は衰えているかもしれませんが、逆に地域の力は強くなっています。当時、60歳の方が90歳になっていますが、未だに元気です。人数が少なくなればなるほど、高齢者も子ども住民の1人として大切な存在です。「子ども」とか「年寄り」といった扱いではなく、地域の1人として、それぞれが役割を果たしているという感じです。</p> <p>そのような中で、天明地区には自発的なグループが最近、出来てきています。熊本地震後の2年前から天明地区の30代、40～50人程の集まりが、「この地域を</p>

	<p>どうやっていこうか」というのを飲み食いしながら語る会が始まっています。本当に良いことです。女性のほうが男性よりもそういった会には集まり易いのですが、1 回目はなるべく男性を中心に集まっていたくようにしたようです。現在も、その会の中で地域を語ることを続けておりますので、大きな期待をしています。今後、委員会のようなものができ、リーダーが育っていくのではないかなと思っています。</p> <p>また、子どもは、この春から法人として「ささえりあ」を受けさせていただきました。この地域をどのように支えていくのかということを考えており、「健康寿命 3 歳アップ、子どもから高齢者まで食育、運動、生きがい」をキーワードに掲げて活動を始めたところです。河内で小林先生がやっておられるように、誰かがきっかけを作り、「うまくいくときもいかないときも、やっていますよ」と続けていくことが、「自主自立」さらには「自発」を育てていくのではないかなと思っています。以上です。</p>
澤田 委員長	<p>ありがとうございました。非常に参考となるお話でした。</p> <p>では、越地委員よろしいでしょうか。</p>
越地 委員	<p>まずは、全体的なイメージの話で、人口等の推移予測をまとめている資料についてです。「熊本市は人口が減少し、老年人口が増えます」の下に矢印があり、「地域コミュニティ活動の衰退、地域の繋がり希薄化」とまとめてあります。人口が減り、お年寄りが増えることが、地域コミュニティ活動の衰退などに繋がるという関係性は、少しワンパターンではないかなと思います。こういう表現はどこにでも出てくるものではありませんが。こういった「地域コミュニティ活動が衰退する」というイメージ自体が、マイナスの印象をかぶせてしまうのではないかなと思います。これをあえて、二文字の言葉で言い換えると「変化」です。つまり、「地域コミュニティ活動が変化する」ということです。また、「地域の繋がり希薄化」もマイナスイメージです。これも三文字の言葉で言い換えると「多様化」となります。</p> <p>このあたりの全体的なイメージを持っておかないと、なかなか、新しい発想が出てこないのではないかなと感じました。</p> <p>その他、細かいところだと、何事も現状を変えようというときには、新しいことをやり、そこに活路を見出そうとします。当然、これは必要なことです。ただ、「今あるもの見直し」という視点も重要です。今がうまくいかないため、新しいことをやろうということですが、今やっていることを否定するのではなくて、今あるものをもっと生かすという作業も必要です。</p> <p>例えば、私も再三言っていますが、校区自治協議会の活性化についてです。自主自立のまちづくりを推進するために、せっかく熊本市が音頭をとって市内 96 の団体を作ったわけですので、これをどう生かすかです。本来、その目的で作った経緯もあります。本来の目的のためにどうすれば役に立つのか、ぜひ、見直しをやっていただきたいです。</p> <p>また、先ほど、雲南市の紹介がありました。既存の団体に囚われない新しい組</p>

織を作って、地域を動かすという事例かと思います。これは、既存の団体で活動していても埒が空かないということで、私も似たようなことをやったことがあります。「江津 100 人衆」というものを作りました。いわば、有志の集まりです。すぐに組織できたのですが、果たしてこのようなやり方がいい手法なのかは別です。そのような手法を自治協議会あたりでダイナミックに運営していくことが理想ではないかと感じています。以上を踏まえて、私は自治協議会の活性化が一番大事だと考えています。

また、そのために大事なのが前回も話しましたが、「女性パワー」の活用です。未だに眠っていると思いますので、活用によって新たな展開が期待できます。

今あるものを見直すという観点で、もう 1 点が「地域コミュニティづくり支援補助金」についてです。これは非常に可能性を秘めていると感じています。5 つの区で別れて支援事業を募集し、審査を行っています。年々、内容も充実してきています。事業の中には素晴らしいものもあります。本日の事例紹介の含めていいものも沢山あります。これらの事業は、それぞれの区でばらばらに行われている印象を持っています。お互いの区の情報交換というのが失礼ながら不十分ではないかなと感じることがあります。年々、補助予算額も増えており、今年度から NPO も補助対象として拡大しました。以前は、町内会などの既存の地域団体に限定されていました。まちづくりに関するアイデアが沢山ありますので、恐らくこれから膨らんでくるでしょう。ぜひ、ここをさらに充実させていただきたいです。

「各区でばらばらにやって、終わりました。」ではなくて、「私の区ではこんなことをやっていた」などの情報交換をやっていただきたいと思います。本日はまちづくりセンターからも職員がお見えで、まさに先頭に立ってやっておられるかと思えます。ぜひ、お願いします。

あと、新しく何かやるということは難しいかもしれませんが、思いつくままにお話します。先進事例を見せていただくと全国あるいは熊本市のものがあります。初めて聞くというのが沢山ありました。では、恐らくほとんどの市民の方も同様に知らないと考えておかしくないでしょう。その周知を色んなかたちで行うべきです。例えば、内閣府は全国の事例を公表していると聞きました。熊本市でも「先進」という言葉が当てはまるかは別として、最近の活動事例を紹介し、それを更新することで広く市民の皆様を知っていただくというアピールの方法として、すぐ実践できることかと思えます。

また、企業との関わりが重要だということに改めて気付きました。先ほどの事例の中でも地元企業が支援している活動がありました。私達の自主自立のまちづくりというと、個々人だったり、家族であったり、町内会であったり、校区であったりという発想になりがちですが、そこには当然、企業もあります。企業は社会的貢献というものを考えていますので、何か接点があれば、企業を味方にすることによって大きなパワーになります。元々企業はノウハウなどを持っているので、うまくからめることも必要です。

それから、湖東中学校地区生徒会の事例は、とても新鮮でした。これはどこの

	<p>地域でも同様の取り組みを実施していただきたいです。ぜひ、中学生による「まちづくりアイデアコンテスト」みたいなことも、呼びかけてやってもいいかと思います。なぜ、中学生かというと、中学生までは校区と一体となっています。高校・大学はばらばらです。選挙年齢も引き下がったことですし、色々な意味で関心が高いと思いますので、アイデアコンテストが開催できれば面白いです。</p> <p>実は、荒尾市で似たような会議があつて、私も参加した際に提案しました。荒尾市では中学生ではないですが、「若者によるまちづくりコンテスト」を去年から始めました。賞はつけませんが、ステージ発表などを行っています。できれば熊本市にはシティ FM がありますので、ただ1回だけでのステージ発表ではなくラジオを活用し、今日は〇〇中学校、明日は〇〇中学校といったように帯として一年通した発表も良いなと勝手に想像しております。</p> <p>最後に1つだけ。今はネット社会です。紹介された事例の中に帯山6町内ホームページがございました。一種の先進事例として紹介されたと思いますが、「先進」ではないと思います。これが先進事例となっている間は、ネット時代のまちづくりとは言えません。すべての地域で作らなければなりません。これについては、行政の支援が必要でしょう。校区単位あるいは町内単位であつてもいいと思います。これも1度有志のメンバーでホームページ作成などのお手伝いを行う団体を立ち上げたことがあります。今も残ってはいますが、なかなかうまくいかず途中で中断した形になっています。各校区や町内で作りたい人はいっぱいいますが、どうしたら良いか分からないのが1番の問題です。じゃあそこにお手伝いしようということです。これを、ぜひ行政でも支援していただきたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
澤田 委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、次に北岡委員お願いします。</p>
北岡 委員	<p>私は、簡単に思いつくことをお話します。</p> <p>私の住む御幸校区で自主自立のまちづくりという点で考えたところ、6町内では公民館を住民全員で協力して建てました。3,000万円以上かかりました。どうやって建てたかという、行政から750万円の補助金と解体にかかる300万円程の助成がありました。残りの2,000万円以上のお金の確保は、廃品回収や資源物回収などを地域の協力によって、数年間で成し遂げました。現在は立派な建物が建っております。既に建設から4.5年は経っておりますが、他所からも見学に来るくらいです。</p> <p>私の住む7町内でも、同じようにやろうと私から声を掛けましたが、なかなかエンジンがかかりませんでした。その場合、6町内は皆さんがお話しているように「リーダー」が優秀で、人員力がありました。資源物回収も子ども会子ども会として、取り組むといったように、地域で一致団結していました。また、公民館建設後も維持費などの経費がかかります。それも、行政と相談の上、資源物回収などで得たお金を充てております。</p> <p>私が自治会活動している中で思うことは、活力に満ちた人に年齢は関係ないと</p>

ということです。やる気のある人が引っ張っていくということが重要で、年寄りかどうかは考えていません。

幸田校区では第2火曜日に自治会長の集まりを行っています。これは、他の地域ではあまりやっていないことと聞いています。その中で、自分の地域の発展などの話し合いをしています。良い例もありますので、地域の発展のために、連合会みたいなものを作って年に1回でも2回でもいいので集まるのもいいです。私はたまたま公園愛護会連合会の理事で、年に1回必ず集まっています。

また、食の安心安全ということで、何事も一番は健康から基本は始まります。添加物など食品に対する安全・安心について、熊本市はどう考えているのか聞いてみると、案外安い食材を使っている場合もあるようです。私は、食品添加物の勉強会に月1回2時間の勉強会に2年間通いましたが、食品添加物は本当に怖いんです。その意味で、地域で食を扱う場合には、そのあたりを考慮する必要もあると思います。熊本市は農産地域ですので、新鮮な野菜などが沢山あります。私も今年の5月に地域の子供達とのじゃがいも作りを通して、食の安心・安全を皆様方に伝えたところです。子ども会にも協力をいただき、沢山の人たちにご参加いただきました。しかし、なかなか食の安心・安全に関する事は、十分に伝わっていません。

また、私はこの会議に参加する前に、顔見知りの自治会長に「今度こういった会議があるから」ということで、どういった考えがあるのかを聞いてみました。いきなりの質問でしたので、分からないといった回答でした。それを踏まえて、私が言いたいのは、自治会長さん何人かに話をしましたが、笑い話の中に消えていく人と、考え込む人とおりました。自治会長自身が自分のところの町民達が、「自分の住むまちに何を望み、何をしたいのか」を考えたことがあるのかということです。誰も答えられる人はいませんでした。そのため、私がたまたま時代劇ではないですが、江戸時代にあったような目安箱を真似てゴミ置き場などに1つ2つ置いてみようと考えました。「皆さんはどういうまちを作っていきたいか？」といったように、みんなが参画することが必要です。「俺は知らない」といったように何十年も住んでいるのに、地域の行事などに1度も来ないかたが沢山います。ですから、そういった人も町の行事に参加させることによって一体感を作ろうということで目安箱を提案しました。

しかし、うまく賛成も得られず、自分の頭の中の考えで終わっている状態です。こういった1つの案を町内の会議に諮ってやってみようじゃないかという動きがありません。私はそういった小さなところから始めて、大きくしていき、ちよつとずつ町内会が立派になっていけばと考えています。それが、ひいては市政にも繋がるものだと思います。

以前、お話しましたが、私の7町内だけでも病気の少ない健康なまちづくりを目指したいです。一番の節約は病気をしないことです。今の病院は病気を治すことだけではなく、予防医学にも力を入れています。そういう意味で、ぜひ町内の住民にも何かの機会にそれを伝え、より良いまちづくりに繋げていきたいです。

	<p>そういったことを今は考えております。以上です。</p>
澤田 委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、家入委員をお願いします。</p>
家入 委員	<p>はい。ある程度、時間の兼ね合いもありますので、コンパクトにお話いたします。</p> <p>私はPTA目線の意見となりますが、私が地域に入っていたのが小学校のPTA会長をしていたときでした。今から2年前です。青少教の会長やPTA会長ということで地域の方々にもかなりお世話になりました。</p> <p>先日、たまたま当時関わりのあった地域の方と会う機会があり、現在の校区の状況などをお話しました。私の知る2年前と様相がかなり変わっており、以前は校区で1つとして活動していましたが、今は町内単位でそれぞれが活動しているといった状況です。校区としては少し「バラバラ」といった状況を聞いたところです。その校区は4つの町内しかありませんが、「そうなのか・・・」と驚いたところです。</p> <p>理由の1つとして、連合会を率いていた会長が変わり、足並みが揃わなくなったことがあるかもしれません。「リーダー」という存在の大切さを改めて認識しました。</p> <p>話は少し変わり、資料の中で気になったところですが、自治会加入率については、熊本市内のマップに地域ごとに色分けができると、どこの自治会がどの程度の加入率なのかといったことが明確になりますので、今後の対策として参考になるのではないのでしょうか。というのが、昨年度PTAで政令市大会がありました。大阪市の会長と話した際、大阪市ではPTAの加入率が北と南で大きく差があるということでした。北の方は加入率が高く、南の方はくればくればほど加入率が低くなっているようです。それを踏まえ、加入率向上の対策にも役立つと感じたところです。</p> <p>また、人口減少については、PTAの会員数の推移を見て、私も感じていることです。5年前の会員数が5万5,000人だったところが、一部、非加入者もいますが、現在は、5万2,700人ということで、2,300人も減少しています。</p> <p>自主自立のまちづくりという点で、様々な委員や校長先生などと話をする中で、「これは良いのではないか」と思うことがあります。現在、教育委員会では、学校として地域で何か活動をする場合に、積極的に校長先生本人が入っていきなさいという方針で進めています。稼ぐという言葉には「お金を稼ぐ」という意味だけでなく、「地域の人たちの支援をいただき、子ども達に貴重な体験をさせる」という意味もあると思います。それを、地域の人たちとコミュニケーションをとりながら学校が実践し、さらに、今後は地域だけでなく企業などとタッグを組んで活動していくことが求められるのではないかと感じています。</p> <p>自治会としても、先ほどの話にあったように行政だけに頼るのではなく、地域に根ざした企業であったり、幅広い人脈を持っている住民などをいかに発掘し、巻き込んでいくのかを考えなければなりません。</p>

	<p>マンパワーにしても、主婦のお母さん達は世の中と関わりたいという人が多いと感じています。PTA の三役まではいかないにしても、ちょっとした役割を与えることで、地域との関わりに参加していくことも可能です。地域への直接参加であれば、「まだ私達は若いから」といったように、地域活動は自分達より高齢の人たちが行うイメージがあります。そこを打破する必要もあるかと思えます。</p> <p>私の地域では、私が PTA 会長のときに、こっそりとお母さん達を連れて行ったこともあり、年齢層もかなり低くなっています。そういうところが増えていけば、「地域＝高齢の人がやっている」ではなく、「地域＝誰でもできること」が当たり前になるかもしれません。</p> <p>次に、事例の中にあった「TEAM 城南ワンダホー」についてです。立ち上げの中心メンバーの 1 人が以前の隈庄小学校の PTA 会長です。私も理事会等で一緒に活動をしたことがあります。そのときにも、自分が中心となって精力的に引っ張っていく人でした。そういったリーダー的な人がいるからこそその活動だと感じました。「自分たちのまちの魅力を伝えるためには、どうしたらいいのか」を住民みんなが考えた結果、「自分たちのまちにしかできないことをやろう、大きな都市ではなく、小さな町だからこそできる何かをやっていこう」といったことで始まった活動と聞いています。こういった事例として紹介されているところを見ると、ものすごく頑張っているのだなと思いました。</p> <p>私からは以上です。</p>
<p>澤 田 委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、秋山委員お願いします。</p>
<p>秋 山 委 員</p>	<p>まずは、全世代が参加できる催しを通して顔見知りを作るという点で、一番効果的なものがお祭りだと思います。</p> <p>私の黒髪校区は場所が広いため、町内が絡むお祭りが 4 つ、事業所が主催するお祭りが 6 つあります。お子さん、高齢者の方、車椅子の人など様々な人達の参加が見られます。このように全世代参加型の催しを見つけて、実行していくことが大事かと思えます。</p> <p>黒髪校区では端ですが、坪井緑地公園というものがあります。ここの利活用の一環として、坪井川の土手に桜の木を植えまして、いずれ花見ができる桜並木ができればいいなと去年から始めました。今はまだアピール不足で、若年層には行き届いておりませんが、桜の木は河津桜を寄贈していただき植樹したものです。管理がかなり大変で、土手の草刈を毎月しなければなりません。土手は斜めなので、高齢者の参加はかなり応える作業です。しかし、いずれは子ども達が集える場所になればとの思いで行っています。</p> <p>さらに、今年は坪井川緑地公園でウォーキング大会も開催しました。黒髪校区だけでなく、坪井川周辺の壺川、高平台、清水の 4 校区に加え、遊水地の会を加えた主催で今年の 3 月に開催しました。親子だけでなく高齢者など、誰でも参加できる催しです。</p> <p>また、これは、まだ進めていませんが、高齢者と乳幼児や児童が交流できる場</p>

	<p>を作りたいと思います。この根底には、外になかなか出られない高齢者にも得意なことがあり、それを子ども達に遊びながら教えることが出来るような場があればいいなと考えたからです。また、現在、就労されている家庭も、乳幼児などを預けられる場所があれば、安心して仕事に就けることにも繋がります。現在のところ、私達、自治協議会役員の中だけの構想ですが、学校を活用できないかと考えています。また、校区内には高齢絵者向けの施設が沢山あり、会議室などの広い部屋を貸してもらえるところもあります。就労している人の中には、介護や育児などで仕方なく仕事をリタイヤする人がいますが、その問題を解決できればと考えています。これから就労人口が減っていきますが、少しでもその人口を維持できればと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>澤田 委員長</p>	<p>ありがとうございました。 小林副委員長お願いします。</p>
<p>小林 副委員長</p>	<p>既にやっていることは、オレンジカクテルナイトということで資料に記載がありますが、私も西区の地域の人たちと取り組みを始めて、かれこれ5年、6年となります。</p> <p>その中で、人口減少の問題と高齢化の問題は、共通するところがございます。それらの歯止めがかからない現状を踏まえ、どう解消するのか、どう緩和するのかということですが。</p> <p>一番に考えられるのは交流人口を増やして、地域の人たちの生きがいを創出することです。地域の人たちがやる気を出す、あるいは高齢者が役割を持って何かに参加できるような場を提供することが、もしかすると医療費の削減や人同士が繋がることで新しい社会進出みたいなこともできるのでは、との思いでやってきました。</p> <p>実際には資料のとおり、少しずつ結果は出てきており、毎回600戸くらいの地域の人たちにアンケート調査を行っています。「今年のオレンジカクテルナイトには参加しましたか？」や「参加してどうでしたか?」、「参加しなかったのはなぜですか?」といった内容です。その中で大きなフィードバックとして得られたことは、「やりたいけれど、何をしたいのか分からない。」といったことです。地域の人たちや「やりたい」と思っているけれども、「私達はやり方が分からないので、教えてください」といった意見が凄く多いです。</p> <p>そのため、地域の人たちやる気と役割をどう外から提供するのがポイントになるかと思えます。</p> <p>やる気を損ないようにして、役割を差し上げると、その人たちは見事に与えられた役割を全うし、素晴らしい生活に結びついていることが過去の3年、4年の活動の成果でよく見えてきました。だから、それが外からの私達のような触媒になる人たちの役割かと思っています。</p> <p>ここ2年くらいは西区を舞台に色々なことを発案させていただいておまして、その中に宝探しというのをやっております。これは、越地委員も言っていた</p>

	<p>ように、地域の中に眠っているものや気がつかないもの、気がついてはなかなか実現ができないものを住民に集まっていたいただいて、「ここには、どんな宝があるのか?」ということをお私がおファシリテーターとして話をしてもらいました。</p> <p>昨年度は中学生が見た地域の宝を探してもらいましたが、今年はお婦人部の方に地域の宝を探してもらいました。すると、びっくりするような宝が沢山出てきましたし、それを活用した地域振興のアイデアも次々に出てきました。具体的に、西区フェスタにて、そのアイデアを実現しようという話も出ています。また、中学生から出てきたアイデアは、季節暦にしたカレンダーやガイドブックを作成しております。</p> <p>このように、今あるものを活かす方法はいくらでもありますが、恐らくそれを水先案内する人間が必要なのかなと感じています。今のところ、すべてがハッピーなわけではもちろんなく、なんとなく地域のやる気の醸成には繋がっていますが、活動自体がお金になっているのかということとはありません。それでは、お金をどうやって作っていくのかということで、今年はお更に特産物を使って学生達と地域の人たちと一緒にジャム作りなんかを始めました。それをオレンジカクテルナイトで発表して、商品化に繋がれば良いなと思っています。</p> <p>また、西区芳野の地域は移住者が増えています。この移住者と地域住民とのコミュニケーションがほぼない状態です。それをどうやって結びつけてうまく交流させるのかもオレンジカクテルナイトを活用できないかと考えています。</p> <p>さらに、昨年度やってみて少し失敗だったのが、地域の農業従事者の結婚相手がないということで、婚活イベントをやろうということになりました。当日は天気が悪く、すべてを集約して狭いスペースで行ったため、婚活を行っているのが周りからばれればれた。結果として、「こんなところではできません」といったフィードバックもあり、今度からは婚活イベントだけを独立させようといった動きも出てきています。</p> <p>地域の方々と一緒に様々な活動を行っている中で、新ししアイデアが生まれてきている実感があります。今後、どうやって地域の人たちのやる気と役割を与えるか、うまく繋げていけるのかということが大事だと考えております。</p> <p>時間もないので、以上で終わります。</p>
<p>澤田 委員長</p>	<p>はい。ありがとうございました。皆様から様々なご意見がありました。</p> <p>高齢者の支援や人材活用という話については、市の福祉部門で行っております「高齢者の社会参加に関する研究会」でも議論しており、私や小林副委員長、越地委員も委員として参加しております。同じ市内ですので、ぜひそちらの協議状況も参考にしてください。</p> <p>今、一巡意見を伺いましたが、他の委員のご意見を聞いて追加で発言したいことなどはございませんでしょうか。</p>
<p>北岡 委員</p>	<p>1点よろしいでしょうか。</p> <p>自治会加入という話をよく聞きますが、自治会に入っていない人は、自治会のごことに全く興味がありません。加入自体は強制することはできませんから、現在</p>

	<p>加入していない人をスムーズに加入させるための意識付けのようなことができないでしょうか。私の町にもマンションが増えておりますが、マンションの人はほぼ入っていない状況です。ただ単純に、マンションの管理人から、町内会費だけはこれだけの負担をお願いします、とそれだけの状況です。</p> <p>そのあたりをうまくできるシステムを行政側で考えてもらえないかと感じています。</p>
澤田 委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>その他ございませんか。</p>
高智徳 委員	<p>高齢者が増えることが悪いという流れができてきているように思えます。「地域が高齢化していること＝悪い」の考えが結果として、越地委員がおっしゃっていたように「衰退」や「希薄化」という言葉となっています。この言葉が出てくるということは、この方々がいなければ何も出来ないということです。もっと敬意を払い、この方たちがやっていることはすごいことなんだ、スーパーマンなんだ、といった捉え方で進めていくと、年齢を重ねることが悪いことではないと分かってきます。</p> <p>高齢者の方々が今現在、大変なことをやっているという事実こそ伝えていかなければ、みんなも分かってもらえないし、地域に入ってもいけないと思います。そこが結果的に自主自立のまちづくりに繋がる気がします。「じゃあ、高齢者の方々ばかりに任せて入られない。」という人が中にはいるかもしれません。</p> <p>まずは、全体的な風潮を打破していかないと、この溝は埋まらないのではないのでしょうか。皆さんのお話を聞いて思ったところです。</p>
澤田 委員長	<p>ありがとうございました。皆様からすごく良い意見を沢山いただきました。</p> <p>まずは、今高智徳委員からご意見がありましたが、我々の発想自体を変えていく必要があることを皆さんの意見を聞いて感じたところです。高齢化が悪いという考え方は、そもそも理屈が通っていません。実際には、地域を支えているのは高齢者を中心とした皆様です。北岡委員からは、年齢ではなくやる気というご意見もありました。やる気というパワーがある方に年齢は関係ありません。そのあたりの発想を変えていくことが必要です。</p> <p>また、米満委員から話がありましたが、人口が減少していくことも我々は悪いと捉えがちです。しかし、逆に言うと一人ひとりが大切なメンバーであり、一人ひとりの重要性も上がっていく時代であるという捉え方もできます。</p> <p>資料中に記載のあった地域コミュニティの衰退や希薄化といった言葉は、つつい使いがちです。私もこれを見て「ああ、そうだよ」と流してしまいました。しかし、越地委員から指摘があったとおり、この言葉を見た瞬間に我々の中にあきらめのムード、「しょうがないよね」という空気になってしまいます。これも、間違っていることだと改めて感じました。「地域コミュニティ活動の衰退」と書かれていると、「衰退してもしょうがない」という雰囲気になってしまう。ここの捉え方を変えていかなければなりません。それこそ、「地域コミュニティ活動の変化」であったり、「地域の繋がり多様化」といった捉え方です。そ</p>

	<p>のように考え方のフレーム自体を変えていく必要があります。今後、自治推進委員会として、自主自立のまちづくりを進めるための提言をする際にも、全体的なトーンや発想を変えた上で、提言書を作っていきたいと考えております。</p> <p>それともう1点、皆さんから意見をいただいた内容として、地域力を高めていく仕組みづくりの問題として、まずは個人の部分でリーダーの役割も重要ですが、周りの人たち、つまりフォロワーにいかにつけるか、次のリーダーとして育てていくかといった仕組みをどのように作りかということです。また、地域のやる気をどのように引き出し、役割をどのように与えていくのかがとても大切だと感じたところです。当然、火がついた人たちを自治会活動や地域活動に繋げていく仕組みも考えていく必要があります。</p> <p>さらに、自治協議会にしても「活性化」というと今が駄目だというイメージが出ますので、自治協議会ルネッサンス、新時代という言葉でもいいので、考え方を換えなければなりません。雲南市は、地域の自治組織を「小規模多機能自治組織」と言っています。規模は小さくても我々はなんでもできるんだというイメージを持っておられます。そういう枠組みでもう一度捉えなおすことも必要かもしれません。</p> <p>あと、企業も市民の1人として、積極的に地域活動に参加するための仕組みづくりが必要であることや、学校と地域が繋がりがやすくなっているという話もありました。昔の感覚では、学校や教育委員会にそのような動きをすることは考えにくかったものです。今はどんどんと変化しているようです。</p> <p>そのようなところで、我々は今後、新しい仕組みづくりを考えていかなければなりません。今日の会議では、私自身、皆さんの意見を聞きながら「なるほど」と頷いていたわけですが、そのようなトーンで次回の会議でも皆さんからまた、様々な意見を聞いていきたいと思えます。</p> <p>それでは、次回の会議では、皆さんからのこれまでの意見をまとめた資料を事務局には作っていただき、それをもとに我々が考える「自主自立のまちづくり」というものを、より明確化していきたいと思えます。また、地域担当職員の意見や考えも事務局にて吸い上げて、次回の会議にて紹介していただきたいと思えます。</p> <p>本日は地域担当職員も出席しておりますので、どなたか1人、会議を踏まえて何かご発言をお願いしたいと思います。感じたことや、私達への提言でも結構です。</p>
<p>地域担当職員</p>	<p>東部まちづくりセンターの小倉と申します。私の担当している校区の事例として、湖東中学校地区生徒会の取り組みが紹介されました。その事例に対して、委員より様々なご意見をいただき嬉しく思いました。</p> <p>やはり、地域の活動に対して外側から目を向けていただく、このような場や会議はとても重要だと感じました。このような会議で好事例として紹介したこと自体を地域にも知ってもらうことも大切だと思います。</p> <p>今後も湖東中学校の取り組みだけでなく、様々な地域活動に対する支援を行っ</p>

	ていきたいと思っております。何かございましたら、いつでもお尋ねください。
澤田 委員長	<p>ありがとうございました。おっしゃるとおり、良い取り組みを行っている事例は、どんどん発信すべきですし、発信したという事実がまた、その人たちのモチベーションのアップに繋がるということもあるかと思えます。そのあたりも今後考えていきたいと思えます。</p> <p>それでは、最後に事務局より連絡事項がありましたらお願いいたします。</p>
事務局	<p>次回の会議は11月頃を予定しております。</p> <p>本日はとても貴重なご意見をいただきありがとうございました。私達、行政職員も考え方や発想を変えていかなければならないと反省したところでございます。</p> <p>本当にありがとうございました。</p>
澤田 委員長	<p>はい。それでは、皆様から事務局に準備してもらいたい資料などございましたら、個別にご相談ください。</p> <p>本日、自治会加入率をマップ化できないかなどの提案もございました。それについても、事務局でご検討ください。</p> <p>長くなりましたが、以上を持ちました第5回自治推進委員会を終了いたします。ありがとうございました。</p>